

# パートⅠ「手賀沼、江戸川をもっと知ろう」

## 大津川～手賀沼までの水調べ・手賀沼船上・生き物調べ体験

2016年7月23日（土）・9時30分 集合

松戸六実市民センター駐車場～バスにてスタート

※東武野田線六実駅より徒歩7分

### 「手賀沼に流入する大津川や沼では船に乗り沼を知る」

- 9:30 集合
- 10:00 スタート・手賀沼に流れて行く川？の水調べ  
CODの水質検査、透視度計で透明度を確認しながら  
8ポイントの定点観察。昨年と比較などをする
- 12:00 鎌ヶ谷市北部公民館で昼食
- 14:00 手賀沼で船に乗り、沼の水や底のヘドロを検査
- 15:00 手賀沼親水広場前の沼で魚とりのあみを入れて  
生き物調べ。何がいるかな！
- 17:00 六実市民センターにて解散



(手賀沼生き物調べ かご網を投入)

**共催** 松戸市

**後援** 松戸市消費者の会・NPO水環境研究所・NPOクリエイティブまつど工房・生活クラブ  
生協松戸・NPOせっけんの街松戸・ちば環境再生県民の会・つかいまわし工房

**定員** 22名（定員になり次第締め切り）

**対象** 小学生～一般

**申込み・問合せ先** 松戸市環境保全課 TEL 047-366-7337 ・ FAX 047-366-1325 へ  
住所、氏名（子どもは学年）、電話番号をお知らせください。（平日8:30～17:00）

手賀沼は大正時代には北の鎌倉と言われて多くの文人が沼を尊び、家を構えてその自然の中で文筆活動をしていた。今でも志賀直哉の旧居が残されている。沼の水は周囲の木々に蓄えられ雪や雨水が無数の湧水となり湧いて保水されていた。しかし自然の中にあった沼は、人々の暮らしのために昭和24年～44年までに3分の2が「田んぼ」に換えられ周りが整備された。さらに残された周囲の斜面林も切り開かれて住宅地、工場団地として整備された。営々と繰り返されていた保水の役目の木々は切られて湧水もほんの少しになり沼の自浄能力が削がれた。自然に守られていた沼は、日々の人の暮らしで流れて来る排水により手賀沼公園前にはアオコがはびこり塊となり、赤カビ状態になった。おおぜいの人々が手賀沼浄化運動を展開して一時よりは浄化されたが、今また外来生物が迫り来る危機となった。

そのような手賀沼でも人々のオアシスとして、散歩、ボートやヨット遊びや魚釣りに集まる憩いの水辺だ。水の館前の茂みの中では無数の生物が生息している。ここにおきな「アミ」を入れて取り上げ観察をする。さて何が生きているのか自分の目で今の手賀沼をしっかりと観る体験学習！！

**主催：手賀沼流域フォーラム松戸実行委員会**